

資料1 関係高等学校のスクール・ミッション

(<https://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/kki/76777.html>)

	学校名	スクールミッション
1	札幌工業	全日制 ・キャリア教育を通し、自己のキャリア形成により、自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択する生徒の育成 ・豊かな人間性や社会性を培い、自立した社会人・職業人となる生徒の育成 ・自立した人間として他者と協働しながら創造的に生き抜く職業人となる生徒の育成 定時制 ・キャリア教育を通し、自己のキャリア形成により、自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択する生徒の育成 ・健康的な生活習慣を身に付け、自ら考え主体的に判断し行動できる生徒の育成 ・思いやりの心で他者と協働し、たくましく生き抜くことができる生徒の育成
2	札幌琴似工業	全日制 ・地域における体験的な学習活動等を通して、望ましい、勤労観、職業観を身に付け、地域創生に資する生徒の育成 ・豊かな人間性や社会性を培い、自立した社会人・職業人となる生徒の育成 定時制 ・郷土を愛するとともに、地域産業の持続的な成長を担う職業人に求められる資質・能力を身に付けた生徒の育成
3	函館工業	全日制 ・地域との連携・協働等を通して、地域の課題に向き合い、解決するために必要な資質・能力を身に付けた生徒の育成 ・変化する社会に対応するため、幅広い知識と教養を身に付け、他者と協働して課題解決を図ろうとする生徒の育成 定時制 ・地域との連携・協働等を通して、地域の課題に向き合い、解決するために必要な資質・能力を身に付けた生徒の育成 ・変化する社会に対応するため、幅広い知識と教養を身に付け、他者と協働して課題解決を図ろうとする生徒の育成
4	滝川工業	・社会的・職業的自立に向けて必要となる資質・能力を身に付け、持続可能な社会の実現に努める生徒の育成 ・豊かな人間性や社会性を培い、自立した社会人・職業人となる生徒の育成 ・専門教育を通し、自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択する生徒の育成

5	旭川工業	全日制 ・社会的・職業的自立に向けて必要となる資質・能力を身に付け、持続可能な社会の実現に努める生徒の育成 ・豊かな人間性や社会性を培い、自立した社会人・職業人となる生徒の育成 ・北海道の工業教育の拠点校として、新たな社会を拓き、地域や産業を担う人を育む
		定時制 ・社会的・職業的自立に向けて必要となる資質・能力を身に付け、持続可能な社会の実現に努める生徒の育成 ・豊かな人間性や社会性を培い、自立した社会人・職業人となる生徒の育成 ・北海道の工業教育の拠点校として、新たな社会を拓き、地域や産業を担う人を育む
6	北見工業	・キャリア教育を通じ、自己のキャリア形成により、自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択する生徒の育成 ・豊かな人間性や社会性を培い、自立した社会人・職業人となる生徒の育成 ・「地域に根ざした職業人の育成」を基本理念に掲げ、基礎基本を重んじた工業教育の実施 ・工学についての技術や知識を有するのみならず、人間・社会・自然との調和を考えて人間性を磨きつづけ、主体的に問題を解決できる能力と広い視野を有することのできる技術者の育成
7	釧路工業	全日制 ・豊かな人間性や社会性を培い、自立した社会人・職業人となる生徒の育成 ・自ら考え、学ぶ力と基礎力・基本的な技術と知識を身に付け、それらを横断的に活用しかつ他者と協働して、課題を解決でき、社会の発展に貢献できる工業人の養成 ・保護者・地域・企業等と連携し多様な教育活動を行うことで、心身ともに健康でたくましく生きる力をもたせ、自他の生命を大切にする人間性を身に付けさせるとともに、地元北海道及び釧路を愛し、発展に寄与できる人材の育成
		定時制 ・豊かな人間性や社会性を培い、自立した社会人・職業人となる生徒の育成 ・自ら考え、学ぶ力と基礎力・基本的な技術と知識を身に付け、それらを横断的に活用しかつ他者と協働して、課題を解決でき、社会の発展に貢献できる工業人の養成 ・保護者・地域・企業等と連携し多様な教育活動を行うことで、心身ともに健康でたくましく生きる力をもたせ、自他の生命を大切にする人間性を身に付けさせるとともに、地元北海道及び釧路を愛し、発展に寄与できる人材の育成
8	帯広工業	・地域における体系的な学習活動等を通じて、望ましい勤労観、職業観を身に付け、地域創生に資する生徒の育成 ・豊かな人間性や社会性を培い、自立した社会人・職業人となる生徒の育成 ・十勝管内唯一の工業高校として即戦力となる技術者を育成し、社会に貢献する学校

9	室蘭工業	・中学校教育との接続を踏まえた基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得により、多様な進路の選択及び決定を図る生徒の育成 ・集団生活や特別活動等を通じて、コミュニケーション能力や豊かな人間性を身に付けた生徒の育成
10	苫小牧工業	全日制 ・豊かな人間性や社会性を培い、自立した社会人・職業人となる生徒の育成 ・ものづくりを通じ、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を身に付けた生徒の育成 定時制 ・豊かな人間性や社会性を培い、自立した社会人・職業人となる生徒の育成 ・ものづくりの意義を理解し、工業技術者としての倫理観を持つことができる生徒の育成
11	札幌国際情報	・次代を担うグローバルリーダーとして、新たな社会的な価値の創造と科学技術分野の発展に貢献できる生徒の育成 ・多様化する国際社会において主体的かつ協働的に取り組む資質・能力を身に付けた生徒の育成
12	小樽未来創造	全日制 ・生徒の興味・関心、進路希望等に応じて柔軟に教育課程を編成し、個々の進路実現に向けて必要な能力や態度を身に付けた生徒の育成 ・望ましい勤労観、職業観を身に付け、自己実現のために努力する生徒の育成 ・後志管内の工業・商業教育の拠点校として、地域の未来を創造し、産業人として必要な資質・能力を身に付けた生徒の育成 定時制 ・社会的・職業的自立に向けて必要となる資質・能力を身に付け、持続可能な社会の実現に努める生徒の育成 ・望ましい勤労観、職業観を身に付け、自己実現のために努力する生徒の育成
13	名寄産業	・郷土を愛するとともに、地域産業の持続的な成長を担う職業人に求められる資質・能力を身に付けた生徒の育成 ・キャリア教育を通じ、自己のキャリア形成により、自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択する生徒の育成 ・豊かな人間性や社会性を培い、自立した社会人・職業人となる生徒の育成
14	富良野緑峰	・地域との連携・協働等を通じて、地域の課題に向き合い、解決するために必要な資質・能力を身に付けた生徒の育成 ・郷土を愛するとともに、地域産業の持続的な成長を担う職業人に求められる資質・能力を身に付けた生徒の育成 ・社会に貢献し、地域・世界で活躍する職業人材の育成

15	留萌	・生徒の興味・関心、進路希望等に応じて柔軟に教育課程を編成し、個々の進路実現に向けて必要な能力や態度を身に付けた生徒の育成 ・郷土を愛するとともに、地域産業の持続的な成長を担う職業人に求められる資質・能力を身に付けた生徒の育成 ・変化する社会に対応するため、幅広い知識と教養を身に付け、他者と協働して課題解決を図ろうとする生徒の育成
16	紋別	・地域の高校として、地域の教育資源を活用した教育活動を通じて、地域の未来を創っていく生徒の育成 ・個々の生徒の特性等に対応した学習指導及びキャリア教育を通じて、主体的な進路の選択決定をするための資質・能力を身に付けた生徒の育成 ・郷土を愛するとともに、地域産業の持続的な成長を担う職業人に求められる資質・能力を身に付けた生徒の育成
17	美幌尚栄	・関連する科目のまとまりである「系列」及び幅広い選択科目の学習を通じて、自立して生きていくために必要な能力や態度を身に付けた生徒の育成 ・社会人としての基本的な資質を身に付け、地域の課題に対して主体的に考え、取り組むなど、自ら課題解決していく生徒の育成 ・「社会で通用する18歳」になるために3年間で6つの資質・能力(思考力・自己肯定力・人間関係形成能力・行動力・創造力・発信力)を身に付けた生徒の育成

資料2

関係高等学校のスクール・ミッション選択カテゴリー一覧

(1) 斜体は定時制課程		校数合計	美唄尚栄	紋別	留萌	富良野緑峰	名寄産業	小樽未来創造	札幌国際情報	苫小牧工	室蘭工	帯広工	釧路工	北見工	旭川工	滝川工	函館工	札幌琴似工	札幌工	学校名
カテゴリー																				
ミッシ ョンⅠ	普通科単位制・専門学科単位制	2			○			○												
	総合学科	1	○																	
ミッシ ョンⅡ	1 地域における学びを重視する学校群	5	(5)	(2) (3)		(1)					(4)						(1) (1)			
	2 キャリア形成を重視する学校群	9			(4)		(1)	(3)	(1) (2)			(5)		(1)	(3) (3)		(4) (4)	(5) (4)	(1) (1)	
	3 リーダーとして地域・社会へ貢献する生徒の育成を重視する学校群	4																		
	4 スペシャリスト及びプロフェッショナルの育成を重視する学校群	12		(1)	(1)	(1)	(1)			(4) (4)		(4)	(4) (4)	(4) (4)	(4) (4)	(4) (4)		(4) (1)	(4)	
	5 多様な学びを重視する学校群	2						(3)			(1)								(2)	
	6 学校設定項目	10	有			有		有		有		有	有	有	有	有			有	有

資料3 高等学校学科別生徒数

【平成22年度】

(平成22年5月1日現在)

区 分		全 国		北 海 道	
		生徒数 (人)	比率 (%)	生徒数 (人)	比率 (%)
合 計		3,360,101	100	143,650	100
普 通 科		2,430,528	72.3	108,834	75.8
職 業 学 科	小 計	654,588	19.5	27,723	19.3
	農 業 科	87,696	2.6	4,527	3.2
	工 業 科	266,667	7.9	9,675	6.7
	商 業 科	221,403	6.6	10,850	7.6
	水 産 科	9,458	0.3	997	0.7
	家 庭 科	43,429	1.3	1,109	0.8
	看 護 科	13,176	0.4	354	0.2
	情 報 科	2,752	0.1	0	0
	福 祉 科	10,008	0.3	211	0.1
その他の専門学科		102,885	3.1	2,135	1.5
総 合 学 科		172,100	5.1	4,958	3.4

※全日制・定時制のみの統計である（通信制は含まれない）。

【令和2年度】

(令和2年5月1日現在)

区 分		全 国		北 海 道	
		生徒数 (人)	比率 (%)	生徒数 (人)	比率 (%)
合 計		3,082,862	100	119,476	100
普 通 科		2,254,161	73.1	90,066	75.4
職 業 学 科	小 計	553,444	18.0	21,435	17.9
	農 業 科	75,260	2.4	3,532	3.0
	工 業 科	230,934	7.5	7,519	6.3
	商 業 科	178,159	5.8	8,045	6.7
	水 産 科	8,161	0.3	963	0.8
	家 庭 科	36,651	1.2	935	0.8
	看 護 科	13,570	0.4	316	0.3
	情 報 科	2,679	0.1	0	0
	福 祉 科	8,030	0.3	125	0.1
その他の専門学科		107,066	3.5	1,965	1.6
総 合 学 科		168,191	5.5	6,010	5.0

※ 全日制・定時制のみの統計である（通信制は含まれない）。（文部科学省「学校基本調査」から）

資料4

(大学科別) 公立全日制高等学校充足率

令和2年度

大学科	学級数	生徒数	学級人数	充足率
全体	2,430	85,277	35.1	87.7%
普通	1,669	59,829	35.8	89.6%
農業	116	3,138	27.1	67.6%
工業	181	6,508	36.0	89.9%
商業	226	7,420	32.8	82.1%
水産	27	963	35.7	89.2%
家庭	12	355	29.6	74.0%
看護	9	316	35.1	87.8%
福祉	3	32	10.7	26.7%
理数	18	707	39.3	98.2%
外国語	9	346	38.4	96.1%
体育	6	237	39.5	98.8%
総合	154	5,426	35.2	88.1%
その他	3	112	37.3	93.3%

令和元年度

大学科	学級数	生徒数	学級人数	充足率
全体	2,500	88,804	35.5	88.8%
普通	1,722	62,309	36.2	90.5%
農業	117	3,271	28.0	69.9%
工業	187	6,784	36.3	90.7%
商業	230	7,710	33.5	83.8%
水産	27	981	36.3	90.8%
家庭	12	354	29.5	73.8%
看護	9	353	39.2	98.1%
福祉	3	35	11.7	29.2%
理数	18	705	39.2	97.9%
外国語	9	346	38.4	96.1%
体育	6	236	39.3	98.3%
総合	160	5,720	35.8	89.4%
その他	3	116	38.7	96.7%

平成30年度

大学科	学級数	生徒数	学級人数	充足率
全体	2,541	90,957	35.8	89.5%
普通	1,747	63,727	36.5	91.2%
農業	117	3,326	28.4	71.1%
工業	190	6,968	36.7	91.7%
商業	233	7,979	34.2	85.6%
水産	27	993	36.8	91.9%
家庭	12	379	31.6	79.0%
看護	9	352	39.1	97.8%
福祉	3	44	14.7	36.7%
理数	18	713	39.6	99.0%
外国語	9	348	38.7	96.7%
体育	6	233	38.8	97.1%
総合	170	5,895	34.7	86.7%
その他	3	116	38.7	96.7%

平成29年度

大学科	学級数	生徒数	学級人数	充足率
全体	2,579	92,788	36.0	89.9%
普通	1,771	64,964	36.7	91.7%
農業	117	3,379	28.9	72.2%
工業	194	7,062	36.4	91.0%
商業	241	8,260	34.3	85.7%
水産	27	967	35.8	89.5%
家庭	12	384	32.0	80.0%
看護	9	344	38.2	95.6%
福祉	3	56	18.7	46.7%
理数	18	710	39.4	98.6%
外国語	9	356	39.6	98.9%
体育	6	227	37.8	94.6%
総合	172	6,079	35.3	88.4%
その他	3	115	38.3	95.8%

平成28年度

大学科	学級数	生徒数	学級人数	充足率
全体	2,617	94,670	36.2	90.4%
普通	1,809	66,223	36.6	91.5%
農業	117	3,542	30.3	75.7%
工業	194	7,148	36.8	92.1%
商業	241	8,446	35.0	87.6%
水産	27	985	36.5	91.2%
家庭	12	420	35.0	87.5%
看護	9	316	35.1	87.8%
福祉	3	65	21.7	54.2%
理数	18	717	39.8	99.6%
外国語	9	360	40.0	100%
体育	6	229	38.2	95.4%
総合	172	6,219	36.2	90.4%
その他	5	195	39.0	97.5%

平成27年度

大学科	学級数	生徒数	学級人数	充足率
全体	2,667	96,931	36.3	90.9%
普通	1,855	67,954	36.6	91.6%
農業	117	3,639	31.1	77.8%
工業	195	7,234	37.1	92.7%
商業	246	8,684	35.3	88.3%
水産	27	1,003	37.1	92.9%
家庭	13	450	34.6	86.5%
看護	9	322	35.8	89.4%
福祉	3	64	21.3	53.3%
理数	18	709	39.4	98.5%
外国語	9	357	39.7	99.2%
体育	6	231	38.5	96.3%
総合	169	6,284	37.2	93.0%
その他	7	271	38.7	96.8%

平成26年度

大学科	学級数	生徒数	学級人数	充足率
全体	2,721	99,375	36.5	91.3%
普通	1,897	70,089	36.9	92.4%
農業	117	3,712	31.7	79.3%
工業	195	7,323	37.6	93.9%
商業	251	8,866	35.3	88.3%
水産	27	1,023	37.9	94.7%
家庭	14	472	33.7	84.3%
看護	9	328	36.4	91.1%
福祉	3	65	21.7	54.2%
理数	18	709	39.4	98.5%
外国語	9	357	39.7	99.2%
体育	6	213	35.5	88.8%
総合	175	6,218	35.5	88.8%
その他	9	353	39.2	98.1%

平成25年度

大学科	学級数	生徒数	学級人数	充足率
全体	2,757	100,608	36.5	91.2%
普通	1,936	71,512	36.9	92.3%
農業	117	3,643	31.1	77.8%
工業	195	7,317	37.5	93.8%
商業	255	9,063	35.5	88.9%
水産	27	1,021	37.8	94.5%
家庭	14	458	32.7	81.8%
看護	9	353	39.2	98.1%
福祉	3	71	23.7	59.2%
理数	18	699	38.8	97.1%
外国語	9	356	39.6	98.9%
体育	6	209	34.8	87.1%
総合	168	5,906	35.2	87.9%
その他	9	357	39.7	99.2%

平成24年度

大学科	学級数	生徒数	学級人数	充足率
全体	2,825	103,511	36.6	91.6%
普通	1,995	74,064	37.1	92.8%
農業	119	3,758	31.6	78.9%
工業	202	7,606	37.7	94.1%
商業	265	9,337	35.2	88.1%
水産	27	1,017	37.7	94.2%
家庭	14	443	31.6	79.1%
看護	9	351	39.0	97.5%
福祉	3	83	27.7	69.2%
理数	18	710	39.4	98.6%
外国語	9	355	39.4	98.6%
体育	6	208	34.7	86.7%
総合	158	5,579	35.3	88.3%
その他	9	358	39.8	99.4%

平成23年度

大学科	学級数	生徒数	学級人数	充足率
全体	2,883	105,426	36.6	91.4%
普通	2,040	75,712	37.1	92.8%
農業	122	3,770	30.9	77.3%
工業	210	7,776	37.0	92.6%
商業	275	9,646	35.1	87.7%
水産	27	1,018	37.7	94.3%
家庭	15	469	31.3	78.2%
看護	9	348	38.7	96.7%
福祉	3	84	28.0	70.0%
理数	18	710	39.4	98.6%
外国語	9	357	39.7	99.2%
体育	6	234	39.0	97.5%
総合	149	5,302	35.6	89.0%
その他	9	361	40.1	100.3%

平成22年度

大学科	学級数	生徒数	学級人数	充足率
全体	2,964	108,294	36.5	91.3%
普通	2,095	77,840	37.2	92.9%
農業	127	3,886	30.6	76.5%
工業	222	8,176	36.8	92.1%
商業	294	10,174	34.6	86.5%
水産	27	997	36.9	92.3%
家庭	16	520	32.5	81.3%
看護	9	354	39.3	98.3%
福祉	3	87	29.0	72.5%
理数	18	714	39.7	99.2%
外国語	9	357	39.7	99.2%
体育	6	231	38.5	96.3%
総合	138	4,958	35.9	89.8%
その他	6	239	39.8	99.6%

年度別工業科充足率

年度	学級数	生徒数	充足率	全体比
令和2年度	181	6,508	89.9%	1.025
令和元年度	187	6,784	90.7%	1.021
平成30年度	190	6,968	91.7%	1.025
平成29年度	194	7,062	91.0%	1.012
平成28年度	194	7,148	92.1%	1.019
平成27年度	195	7,234	92.7%	1.021
平成26年度	195	7,323	93.9%	1.028
平成25年度	195	7,317	93.8%	1.028
平成24年度	202	7,606	94.1%	1.028
平成23年度	210	7,776	92.6%	1.013
平成22年度	222	8,176	92.1%	1.008

北海道教育委員会
学校基本調査資料から抜粋

資料5 令和3年度卒業生の進路状況

1 就職の状況（希望者数、内定者数の状況）

（数値は人数・比率は％）

学校名	卒業生数 (在籍者) A	就職 希望者数 B	就職 希望率 B/A(%)	内 定 者 数						就職 内定率 H/B(%)	昨年度 同期の 内定率 (%)	未 定 者 E	進学 希望者 F	進学 希望率 F/A(%)
				管内 g	道内 h	道外 i	小計 C=g+h+i	公務員 D	合計 H=C+D					
札幌工	273	176	64.5%	132	4	21	157	19	176	100.0%	100.0%	0	97	35.5%
札幌琴似工	285	178	62.5%	70	56	32	158	12	170	95.5%	96.2%	9	107	37.5%
函館工	233	133	57.1%	0	72	49	121	12	133	100.0%	100.0%	1	100	42.9%
滝川工	49	40	81.6%	17	13	6	36	4	40	100.0%	94.4%	0	9	18.4%
旭川工	233	159	68.2%	61	50	33	144	15	159	100.0%	100.0%	1	73	31.3%
北見工	99	77	77.8%	37	22	9	68	8	76	98.7%	100.0%	1	22	22.2%
釧路工	194	127	65.5%	74	28	8	110	13	123	96.9%	100.0%	6	66	34.0%
帯広工	159	130	81.8%	55	33	32	120	10	130	100.0%	100.0%	2	29	18.2%
室蘭工	121	97	80.2%	79	13	3	95	2	97	100.0%	99.2%	1	23	19.0%
苫小牧工	228	166	72.8%	72	49	31	152	14	166	100.0%	98.1%	0	62	27.2%
札幌国際情報	40	3	7.5%	0	0	0	0	3	3	100%	—	0	37	92.5%
小樽未来創造	77	51	66.2%	12	29	8	49	1	50	98.0%	98.1%	1	26	33.8%
名寄産業	33	19	57.6%	8	4	1	13	6	19	100.0%	100.0%	1	13	39.4%
富良野緑峰	27	22	81.5%	6	10	1	17	5	22	100.0%	100.0%	0	5	18.5%
留萌	28	17	60.7%	7	8	1	16	1	17	100.0%	100.0%	0	11	39.3%
紋別	29	18	62.1%	12	5	0	17	1	18	100.0%	100.0%	0	11	37.9%
美唄尚栄	14	7	50.0%	2	4	0	6	1	7	100.0%	100.0%	0	7	50.0%
北海道科学大学	48	4	8.3%	4	0	0	4	0	4	100.0%	100.0%	1	43	89.6%
旭川実業	115	80	69.6%	54	4	9	67	12	79	98.8%	95.7%	1	35	30.4%
合 計	2,285	1,504		702	404	244	1,350	139	1,489			25	776	
比 率 (%)			65.8%	47.1%	27.1%	16.4%	90.7%	9.3%		99.0%		1.1%		34.0%
昨年度同期計	2,381	1,588		797	401	244	1,442	129	1,571			17	793	
昨年度比率(%)			66.7%	50.2%	25.3%	15.4%	90.8%	8.1%		98.9%		1.1%		

（令和年4月卒業生について3月31日現在で集計）

2 進学状況（合格者数の状況）

（自宅浪人は含まない、予備校生は専門学校に含む）

学 校 名	四 年 制 大 学				短期 大学	高専 別科 専攻科	専修・専門学校 各種学校		力公 開共 発職 施業 設能	その他 留学等 希望（内定）	進学者 の合計 G	卒業者数 （在籍数） A	進学率 G/A（%）
	国公立	私立	小計	理工系 （内数）			理工系 （内数）						
札 幌 工	1	48	49	36	0	0	43	13	5	0	97	273	35.5
札 幌 琴 似 工	2	40	42	34	0	0	58	31	6	0	106	285	37.2
函 館 工	1	34	35	25	4	1	59	47	0	0	99	233	42.5
滝 川 工	0	1	1	1	2	0	5	2	1	0	9	49	18.4
旭 川 工	2	23	25	16	4	0	32	16	12	0	73	233	31.3
北 見 工	2	3	5	4	0	0	11	5	6	0	22	99	22.2
釧 路 工	2	25	27	13	0	0	38	23	0	0	65	194	33.5
帯 広 工	1	15	16	13	0	0	10	7	1	0	27	159	17.0
室 蘭 工	1	2	3	2	0	0	20	15	0	0	23	121	19.0
苫 小 牧 工	1	31	32	18	0	0	28	20	2	0	62	228	27.2
札幌国際情報	13	18	31	16	0	0	6	0	0	0	37	40	92.5
小樽未来創造	1	8	9	8	0	0	16	3	1	0	26	77	33.8
名 寄 産 業	0	2	2	1	0	0	10	4	1	0	13	33	39.4
富 良 野 緑 峰	0	1	1	0	1	0	3	0	0	0	5	27	18.5
留 萌	0	2	2	0	0	0	9	3	0	0	11	28	39.3
紋 別	0	3	3	1	0	0	8	3	0	0	11	29	37.9
美 唄 尚 栄	0	3	3	3	0	0	3	2	1	0	7	14	50.0
北海道科学大学	0	16	16	14	0	0	26	19	1	0	43	48	89.6
旭 川 実 業	1	5	6	1	1	0	19	10	9	0	35	115	30.4
令和3年度合計	28	280	308	206	12	1	404	223	46	0	771	2,285	33.7
令和2年度	51	261	312	188	13		412	212	52	6	780	2,381	32.8
令和元年度	45	240	285	191	35		320	139	45	0	682	2,399	28.4
30 年 度	52	255	307	220	65		378	165	44	0	790	2,554	30.9
29 年 度	35	224	259	164	46		387	143	50	0	737	2,589	28.5
28 年 度	41	265	306	200	58		327	142	50	0	740	2,597	28.5
27 年 度	20	237	257	175	70		365	129	66	0	755	2,592	29.1
26 年 度	50	244	293	206	59		363	123	65	0	774		
25 年 度	38	247	288	208	77		383	139	65	0	810		
24 年 度	44	260	304	217	75		461	178	72	8（6）	898		
23 年 度	37	266	303	214	70		477	230	50	8（6）	894		
22 年 度	46	367	413	300	56		536	222	51	8（6）	1,049		
21 年 度	52	361	413	284	72		495	220	107	8（6）	1,062		

資料6 工業科設置校卒業生の離職者数調査結果

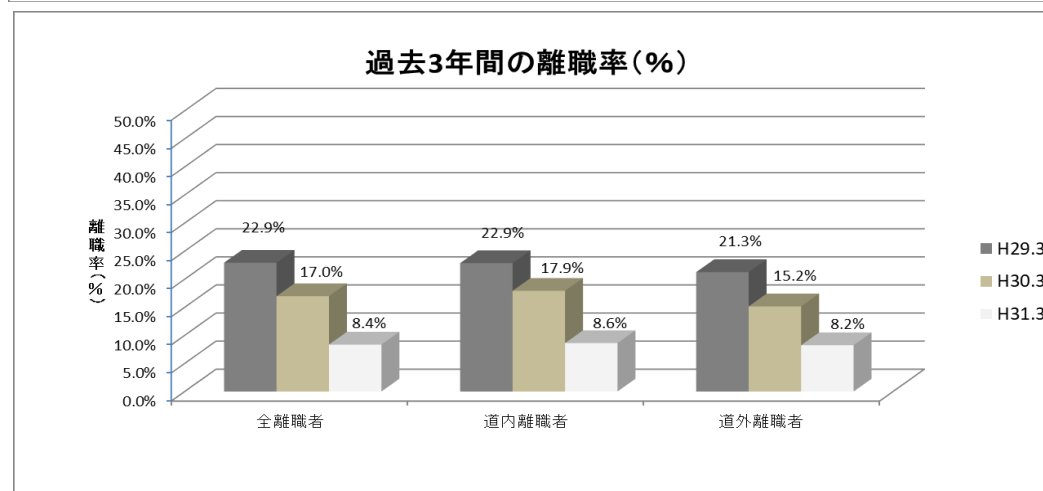
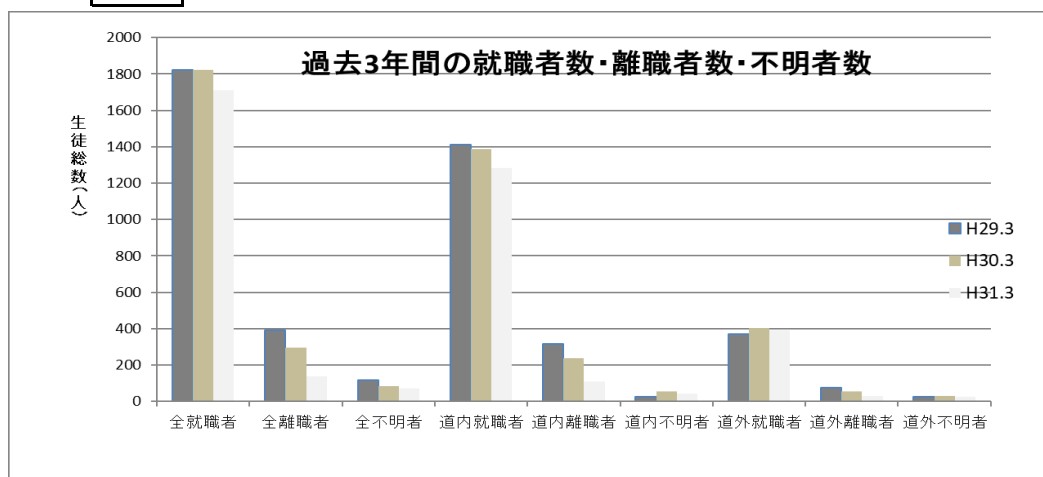
1 就職、進学、未定の状況

卒業年		卒業者	就職者	進学者	未定者
H29.3	人数	2636	1823	766	47
	割合		69.2%	29.1%	1.8%
H30.3	人数	2576	1822	729	25
	割合		70.7%	28.3%	1.0%
H31.3	人数	2470	1710	726	34
	割合		69.2%	29.4%	1.4%

2 離職、不明の状況

卒業年		卒業者	全就職者	全離職者	全不明者	道内就職者	道内離職者	道内不明者	道外就職者	道外離職者	道外不明者
H29.3	人数	2636	1823	391	118	1411	317	24	372	74	24
	割合			22.9%	6.5%	77.4%	22.9%	1.7%	20.4%	21.3%	6.5%
H30.3	人数	2576	1822	295	84	1388	239	55	405	57	29
	割合			17.0%	4.6%	76.2%	17.9%	4.0%	22.2%	15.2%	7.2%
H31.3	人数	2470	1710	137	71	1285	107	44	391	30	27
	割合			8.4%	4.2%	75.1%	8.6%	3.4%	22.9%	8.2%	6.9%

注) 離職率=離職者数／（就職者数－不明者数）とする。



資料7 進路タイプ別分類

(令和4年3月卒)

	タイプⅠ			タイプⅡ	タイプⅢ				未 定
	工業系 の職種 に就職	工業系の 専門学校 等に進学	合計	工業系の 大学等に 進学	工業系以 外の職種 に就職	工業系以 外の大学 等へ進学	工業系以 外の専門 学校等へ 進学	合計	
	(A1)	(A2)		(B1)	(C1)	(C2)	(C3)		
札幌工	126	18	144	36	50	13	30	93	0
札幌琴似工	158	37	195	34	12	8	27	47	9
函館工	118	47	165	26	15	14	12	41	1
滝川工	36	3	39	1	4	2	3	9	0
旭川工	136	24	160	16	23	13	20	56	1
北見工	64	11	75	4	12	1	6	19	1
釧路工	107	23	130	13	16	14	15	45	6
帯広工	115	8	123	13	15	3	3	21	2
室蘭工	89	15	104	2	8	1	5	14	1
苫小牧工	139	22	161	18	27	14	8	49	0
札幌国際情	0	0	0	16	3	15	6	24	0
小樽未来創造	47	4	51	8	3	1	13	17	1
名寄産業	14	5	19	1	6	1	6	13	1
富良野緑峰	15	0	15	0	7	2	3	12	0
留萌	13	3	16	0	4	2	6	12	0
紋別	15	3	18	1	3	2	5	10	0
美唄尚栄	5	3	8	3	2	0	1	3	0
北海道科学大学	4	20	24	14	0	2	7	9	1
旭川実業	41	17	58	1	38	6	11	55	1
合 計	1242	263	1505	207	248	114	187	549	25
	65.8%			9.1%	24.0%				1.1%

※進学の区分 大 学 等：4年制大学、短期大学、高等専門学校、別科、専攻科
専門学校等：専修学校、各種学校(予備校含む)、公共職業能力開発施設

- 電気工事業の世界では、STEAMの知識、技能及び経験はとても重要な要素となっています。私ども電気工事技術者の多くが、社会人となつてすぐに、そのことを強く感じています。例えば、電線を選ぶときに「許容電流は十分だが電圧降下を2.0[V]以内に収めるためには何メートル以内であれば大丈夫か」とか「銅電線とアルミ電線を接続する際の留意点」を考えることがあります。科学的な分析力(S)、それを成し遂げるための技術力(T)、コストを考慮した解決策の検討(E)、解決に向けた創造力(A)、電磁気学や物性科学を前提とした計算力(M)の全てが必要であり、社会に出ても毎日が勉強しながらの仕事です。大変なこともありますが、働く喜びが実感できる職種でもあります。高校時代にこうした重要性に気付かせてもらいたいと思います。
- STEAM教育では、プログラミング学習等により「論理的思考力や課題解決力」を養うなど、IT社会に順応し得る競争力のある人材育成を目指しており、①様々な情報を収集する力、②それらを整理・分析する力、③さらには課題の抽出、④抽出した課題を解決へと導くための考え方やプロセスを理論的に整理するなどの能力向上を図る上で、極めて有効な手法であると考えます。
- 工業高校の授業では、より社会実態に近い事例を数多く取り上げていただき、豊富なケーススタディやシミュレーション等により実践的な能力の習得を目指していただくことを期待したい。
- 日本の技術力や製品の品質は世界基準だと思いますが、持っている技術力に対してどのようにして付加価値を高めていくか、新しい価値を創造するかの発想力が重要になってくると思いますので、この部分のスキルを高める授業を取り入れるとよいと思います。

資料9 「地域や産業界との連携を加速した工業教育」に関わる有識者意見

- 工業科と連携に当たっては、企業と一緒に地域の課題を考えて解決する方法を見つけるような活動に取り組むことが、双方にメリットがあるものとする。工業高校の各学科の知見を総合的に発揮して解決に当たることを期待します。
- 工業高校は、部活動が盛んで先輩後輩などの上下関係や礼儀がしっかりしている印象がある。ものづくりに対する関心と就職意識が高い生徒を育てていることから、企業は即戦力として期待しているので、いろいろな面で連携していきたい。
- 入学希望者数や産業界・地域の今後の需要に合わせていく視点も重要であり、基幹と言われる6学科を大胆に見直すことも必要ではないかとの協議も進めていくことが重要である。また、高校の選択理由として、通学のしやすさもあることから、従来のあまりにも職業意識、勤労観に偏った教育内容は現代に合っているかといったことについても、幅広い協議の場が必要である。
- これからの時代、社会人にとって特に重要となってくるのは、「考える力」と「ビジネス力（お金も含めて）」ではないかと考えています。「考える力」は、様々な知識・情報・経験などを基に、自分なりに組み立て、周りの人を動かしていくことにつながります。また、「ビジネス力」は、どのように社会が、商売が成り立っているのか？お金や情報が動いているのか？商品売るには？売れるようにするマーケティングは？など、社会に出れば必ず必要になる力です。各地域で工業高校の先生方と、こうした情報交換を行う場が必要です。
- 工業高校の先生方には、「地域社会でどのようなことが起こっているのか？」「北海道経済がどのような状況にあるのか？」「日本の立ち位置は？」など、専門以外にも幅広い知識・情報を持っていただきたいと思います。これがビジネスに通じると考えます。
- 北海道電気工事業工業組合では、電気工事にあまり精通されていない先生や、年々改良される機材や工具、工法への対応について先生方にスキルアップしていただく取組を実施しています。予算化を含め協力してやっていきたい。
- 北海道の雇用情勢は、昨年から続くコロナ禍による若干の変動要素はあるものの、ここ数年来続く人手不足は深刻化している。このような状況下で労働力確保の取組の一つとして、道経連としても若者の地元定着の取組を強化しているが、将来的に有望な工業高校卒業生の本州等への流出に歯

止めをかけ、道内企業への定着を図り地域産業への貢献を進める上で、専門性が求められる産業への貢献度が高い地元の工業高校の果たす役割は重要です。

- 訪問があった企業経営者には、生徒の状況や生徒が望む労働環境について伝えていただくと企業の体質改善にもつながります。また、生徒の中には、工業系の勉強を望まないで入学してくる方もいるかと思うが、地域のインフラを支える重要性を伝えるとともに将来に向けた職業観も一緒に伝えていきたい。
- 工業系の生徒の絶対数が少ないことから、建設や機械業界ではインターンシップ、職場見学などを通じて業界に対する理解促進を図っています。工業高校と企業でキャリア教育プランを作って、短期のインターンシップの枠を越えて、建築、土木、製造現場で働く意義などを共有するように進めてはどうか。
- 受け手側の道内中小企業と、送り手側の工業高校のものづくり人材教育の考え方に差異がないか検証が必要で、協議会的な場での意見交換が必要です。
- 意欲的な生徒を集める工夫はできると考えます。中学生が工業高校を志望するように啓発するためには、中学とも連携が不可欠で、技術系の生徒を希望している企業と一緒に中学校への説明をする方法もあります。各地に工業高校がありますので、お互いに行き来するなどの交流をしたり、企業においても、地元企業に限らず、他の地域の企業を希望する生徒だとしても、地元企業の方の話を聞いたり、訪問したりすることを提案します。また、専門外の企業だとしても、いろいろな分野の方の話を聞くことも、将来のことを考えるのに参考になると思います。自分たちが関わっている技術が様々なところで使われているということに気付くことにもつながると思うので、積極的に民間企業などと接点を持ち、会社見学や社員の方の話を聞くような場面を作るべきだと考えます。
- 社会人として分からないこと等を積極的に尋ねる力や習慣を身に付け、他者とつながる経験を積み重ねながら、コミュニケーション能力をはじめとした「チームで働く力」を身に付けることの重要性を協働して指導していくことができる。こうした取組を通して、産業界側がコミュニケーションの苦手な生徒も有為な人材として、受け入れることも考えなければならないと思います。